

食べて「血栓」減らす

麴エキス粉末を開発

機能性食品素材開発のファーマフーズ(京都市西京区)とワキ製薬(奈良県)が、心筋梗塞などの血栓症に効果的な麴エキスの粉末を共同開発した。ネズミの投薬実験で血栓量の軽減を確認しており、新たな抗血栓素材として機能性食品への応用が期待できるという。24、28日に仙台市で開かれる日本農芸化学会で発表する。

血栓症は、血管内で血液成分が固まった血栓が増えることで血液の通り道が狭まり、血流が低下。日本人の死因で上位を占める心筋梗塞や脳梗塞などを引き起こす。

ファーマフーズは発酵食品

ファーマフーズとワキ製薬

も研究しており、血栓を分解する有用成分として、多くの酵素をつくる麴に着目。酒や味噌、しょうゆなど計24種類の麴から抽出したエキスの中で血栓を最も分解する麴エキスを特定した。

ネズミを用いた動物実験では、この麴エキスの粉末を投与しなかった検体に対し、投与した検体の血栓量(バイパス内の絹糸に付着した重量で測定)が最大で30%以下に低下したという。

ワキ製薬は抗血栓効果を踏まえ、麴エキスの粉末を使った製品化を進めており、今夏にも売り出す予定。

(堀内陽平)